

2 認識の三段階論文づくり

認識とは何かーその三段階による論文づくりです。
講義前のしごととしての、現時点の成果をです。

(1) 目の「リクツ」のときは。

まず、一言ハッキリ文を拾い取ってみましょう。

- ① 認識とは、自身の世界観である。
- ② 認識とは、そのものが何が理解すること。
- ③ 認識とは、何を感じ取り、わかること。
- ④ 認識とは、意識して、そのことわりを頭に入れ、覚える作業の結果である。
- ⑤ 認識とは、頭で確認することである。
- ⑥ 頭の中で、意識したり、自分で私は今何をこのと判断したりする。
- ⑦ 認識とは、対象に対するイメージである。
- ⑧ 認識とは、自らの頭の中の知識である。
- ⑨ 認識とは、頭で理解することである。
- ⑩ 認識とは、頭の中で物事が理解されること。
- ⑪ 認識とは、物を判別し記憶することである。
- ⑫ 認識とは、生活の中で得た知識を覚えることである。
- ⑬ 認識とは、物事に対してのイメージ。
- ⑭ 認識とは、感じることだ。
- ⑮ 認識とは、知ることである。

ほとんどできあがっています。

全部を挙げるのことはできませんでしたが、大方は、ポイントをもつておみとっています。えらいもんです。これからこの学術的なつみあげが、知らぬまに知力を発揮しつつあるのですね。
講義は、そこをおしひらき、さらした活用度を高めるのが、リクツ深めていくことになりましょう。

「広げ深めたこと」

●「世界観とは高次元の一般的な結論です。」



●「知ることには三つあります。」



●「理解することにも三つあります。」



。。。など。そういうレベル的な見方に慣れ、そして行使してまいりましょう。それが、視野や展望を広げていく、という事です。
広げ、つ、コレ、と、一点に切りこんでいくようになると、内容が深まるというようになります。それになお、一気に知るものをおたためていると、それにおまづの具体例が、知らぬまに、向うの方向とんでくると、それがおこるようになります。それはチャンスです。おこるだけにもなりませう。むしろ、あつたの存在や思想が、深まってくるので

「知とは区別するということだ」

2012.4.28
金田研伊松 提出
(左河和果)
2012.4.28
「リクツのつみ」

- (2) 目の「たとえ」のところ。
へ略V
- (3) 目の「けいけん」のところ。
へ略V

私たちの認識観
「論理」と「認識」の2つの
講のうち、認識を重点として
書いたのは46人中、37人でした。

2012.4.13 ポラリス
テーマ 認識とは何か。
三 認識とは頭で理解することである。
人間は考えることと似たことは
頭で整理されている。似たことを
わがま、理解することによって整理すること
ができる。
たとえば、ゴキウ-ターサレ。
二 体験には、先生や友人に預けられた
ことと自分の目で見て理解し、
整理をして認識された。
次の日に何と何を比べてみるのか。
時間など。
結論 人間には大きな経験がある。
感想 意味がわからずと難しいと思った。

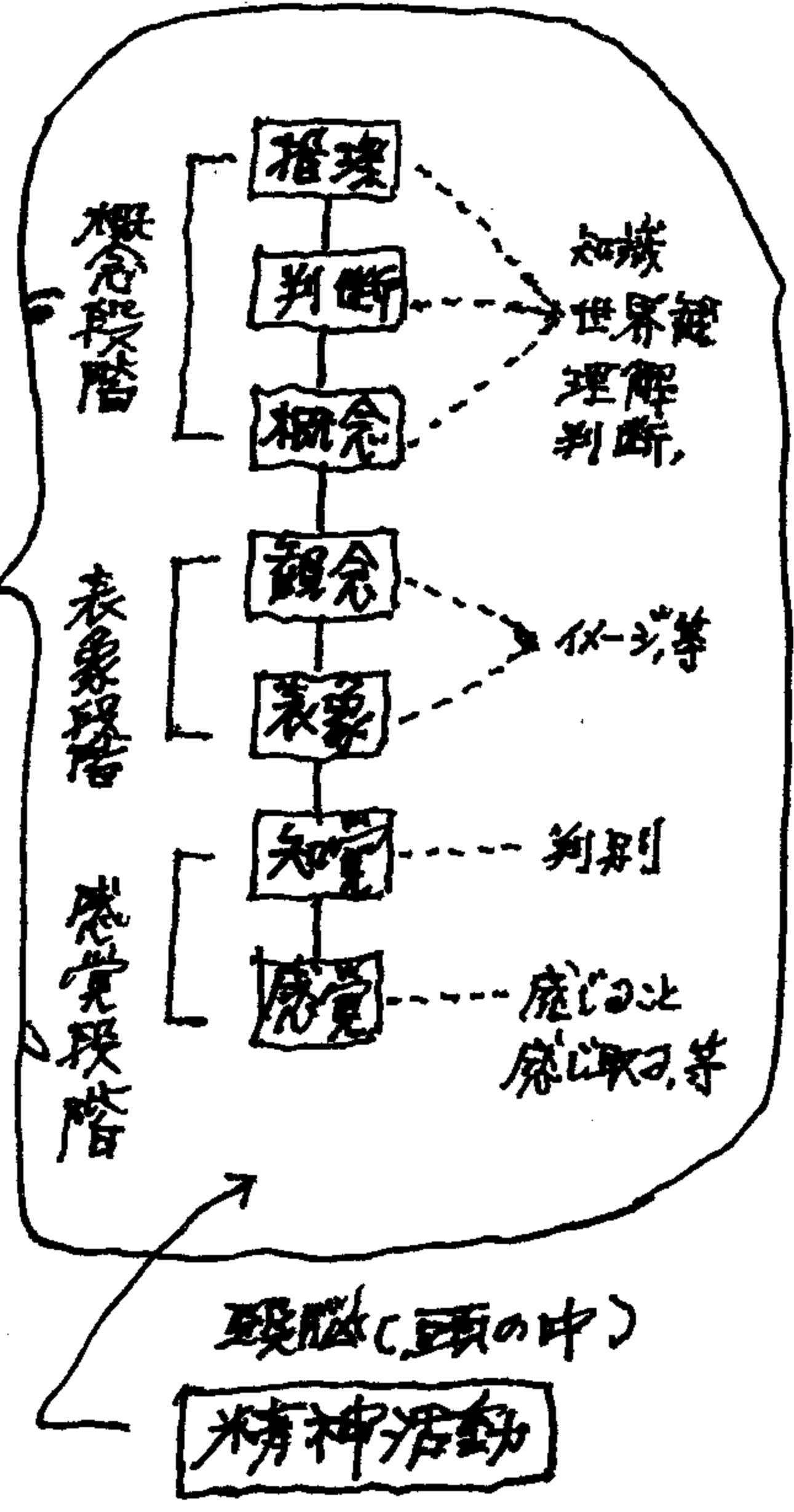
2012.4.13 ポラリス
テーマ 認識とは何か
三 認識とは、物事を捉えること
である。
ある事象について主観的に
理解し、感想をもつこと。
二 たとえと、カメレオンのようだ。
一 経験には、1つの物事を理解
したと思っても、環境が変わったり
自分が変化したりすると認識も変
化する。
結論 認識とは変化するものだ。
感想 自分と他人の認識はまるきり
違うものだと思った。

「知」と出たり、も水は区別する言葉なんだと思ってくたさい。「識」も同
じことです。「知」の「マ」は「知」は、たぶん「マ」です。「知覚・知覚・知識・
知覚・知人・知性・知命・知能・知徳・知徳」といっていい。
対象を区別し、また区分けし、どうも範囲を決め、そこから真理や法則
を抽出することの連者が人が、科学者です。サイエンスが自然科学
ばこそです。

「頭の中」への着目」

サイドラインの文は、認識とは何かにとつて、注目点です。
その中に、「頭に入れ」とか、「頭で整理」とか、「頭の中」とか、「頭
の中の知識」とか、「頭で理解すること」とか、「頭の中の物事」とか、
頭に属する文は、六個も登場してきます。
頭とか頭の中とかを意味することは、認識や知識論におい
て、とても大切なことです。係がたいです。是非にせよ言挙げます。

表現 認識 事象



この頭脳活動には、神経活動、ホルモン活動、精神活動など
あります。シララ、認識は一番関係があるのは、精神活動
です。つまり、認識とは精神活動である」と、粗く切り出すこと
ができるわけですね。
そして、精神活動の主なものといえ、知識プロセスであり、思考運
転であり、また精神への心、魂、気がまきえしつくり、などです。

「サイドラインの文は、位置づけ」
発展論の観点から位置づけしてみると、「知」の「マ」になります。